# 神奈川県川崎市（令和2年3月31日作成）

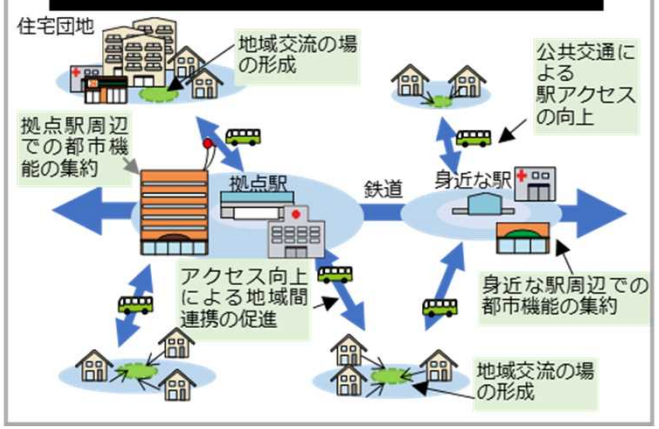
国土交通省

- 「SDGs未来都市」選定などを契機に、持続可能な、コンパクトで効率的なまちを実現し、低炭素まちづくりをより一層効果的に推進するため 「川崎市低炭素まちづくり計画」を策定。
- 低炭素まちづくりの推進に向けた波及効果が期待される地域として集約地域を定め、民間活力を最大限に活かしたモデルケースとしての事業を進めると共に、「川崎市地球温暖化対策基本計画」と連携した、多分野における取組を推進。

## ■目指す都市のイメージ

都市の機能において、エネルギーマネジメントシステムをはじめ、ICT やデータの利活用による創エネ・省エネ・蓄エネの取組が進められるとともに、都市機能がコンパクトに集積し、一人ひとりが豊かさを実感できるスマートなまちづくりを目指す

**コンパクトなまちづくりのイメージ図**




**まちづくりによる波及効果の例**

⇒市民生活の利便性や質の向上
⇒交通流の円滑化、移動時間短縮
⇒緑にふれあえる場の確保、生物多様性の保全
⇒災害時におかえる都市の防災機能の強化

## ■計画区域と計画期間

| | |
|---|---|
| 計画区域 | 市街化区域全域 |
| 集約地域 | 2号再開発促進地区<br>及び都市再生緊急整備地域 |
| 計画期間 | 2030年度まで |

## ■計画の目標

「川崎市地球温暖化対策推進基本計画」で定めた温室効果ガス削減目標値の達成に向け、取組を推進していく。

| | |
|---|---|
| 目標水準・指標 | 温室効果ガス排出量削減（1990年度比） |
| 現況値 [評価年度] | ▲16.8% [2015年度] |
| 目標値 [評価年度] | ▲30%以上 [2030年度] |

## ■主な導入施策

### 都市機能集約を図るための拠点の整備

◆駅周辺における拠点の整備
・集約地域において、再開発手法や規制誘導手法を活用し、機能更新の推進を図る

（例）都市型住宅・商業や、図書館などの市民利用施設を鷺沼駅前に集積させ、駅前広場を約２倍に拡大すると共に、路線バスネットワークの充実により、都市のコンパクト化を図る。

鷺沼駅周辺土地利用ゾーニング

### 建築物の低炭素化

◆次世代エネルギー導入の推進
・川崎水素戦略に基づくリーディングプロジェクトの創出・推進
◆新築建築物の省エネ化・ゼロエネ化の推進
・災害時にも有効な住宅等における蓄電機能の強化など効果的な取組の推進（ZEHの導入補助）など
◆既存建築物のエネルギー性能の向上の推進
・住宅の質の向上、各種認定制度・助成制度等に関する普及啓発
◆エネルギーの最適利用の推進

### 公共交通機関や次世代自動車などの利用促進

◆環境にやさしい交通ネットワークの整備の推進
・「総合都市交通計画」に基づく持続可能な交通政策の推進
・交差点改良などの緊急渋滞対策の実施
◆公共交通機関の利便性向上の推進
・バスの運行状況を示すバスロケーションシステムのバス停への導入の促進
◆次世代自動車等の普及の推進

### 緑地の保全及び緑化の推進

◆林地・農地の保全と緑化の推進
・木材利用促進フォーラム等を活用した国産木材利用促進
◆公園緑地の整備の推進